VR メディア評論

星界の紋章

森岡浩之（原作）　米村孝一郎（漫画）

ほるぷ出版　ISBN 4593857325　2013 年発行

壮大なスペース・オデッセイのはじまり

推　薦　者　　：谷川智洋（東京大学）
インタビュアー：上岡玲子（九州大学）

はじめに

今回の VR メディア評論では，2013 年 5 月に第 1 巻が発行された完結していないマンガを紹介する．原作の SF 小説では，「星界の紋章」（全 3 巻）「星界の戦旗」（全 5 巻）のシリーズがある．物語の展開は今後を期待し，今回の VR メディア評論では，作品全体のテーマや作品の中で描かれていた空識という感覚について紹介する．

1 巻あらすじ

人類が宇宙へと居住地を拡大した遠い未来に，遺伝子改造により進化した種族として宇宙で暮らす「アーヴ」が人類世界の半分を支配する帝国を築き，残り半分の人類と敵対する勢力となっていた．地球型惑星で生まれ育ったジントは権力者である父親がアーヴとの取引きを行ったことで，地上人でありながらアーヴとなった．17 歳になりアーヴが率いる星界軍の主計修技館へ入学するために巡察艦に乗り込んだジントは，アーヴ皇帝の孫である翔士修技生のラフィールと出会い友情を深めるが，人類統合体と名乗る艦隊の攻撃を受け，2 人で巡察艦を脱出することになる．

インタビュアー（以下 I）：

この作品を推薦した理由を聞かせて下さい．

谷川先生（以下 T）：

今回は，原作の小説をコミカライズした SF（サイエンスフィクション）の作品をとりあげました．原作のコミカライズというと，原作好きの人からすると納得のいかない作品が多かったのですが，本作品をはじめとし，最近では良質なコミカライズ作品が出ているので推薦しました．こうした SF 小説の良質なコミカライズ作品が増えることで SF の世界に興味を持つ人が増えるのではないかと思います．

またこの作品は，SF としては普遍的なテーマである，人類の進化や，元は同じ種族だった者同士の戦いといったテーマを取り上げています．最近のテレビアニメの「翠星のガルガンティア」(1) や「銀河機攻隊　マジェスティックプリンス」(2)なども大きな意味では同様のテーマを扱っていることから，流行のテーマではないかと思い推薦しました．

I：

SF の中では普遍のテーマを扱っているということですが，この作品の独特のフィロソフィーはどこにあると思いますか？

T：

宇宙を中心として進化したアーヴという種族を物語の中心に据え，宇宙が故郷である彼らの価値観や生活形態など，アーヴの世界観がリアリティをともない非常に良く描かれている点です．

アーヴ独特の言葉の使い方や，本の中では単語にルビがふってあるアーヴ語 (3) という独自の言語も物語の臨場感を高めています．

図1　星界の紋章より（P.48）
© 米村孝一郎 / ほるぷ出版

T：

また物語では，アーヴは子孫を後世へ継承するために遺伝子改造を行い，家風（ジェデール）を継承するために優れた種を残すことをしています．そして，図 1 にあるように，自らの子どもに対する教育は親が施すことを義務とするという記載があります．昔の日本では家制度を維持するための養子制度が一般的でしたが，血縁よりも家制度を重視する古来の考え方を，テクノロジーを適用し復活させて

いる点などもこの物語のフィロソフィーを感じます.

I：

物語では，超未来が描かれていますが，アーヴの社会制度やしきたりなどから現代の社会問題を考えるきっかけになるように思われました.

T：

アーヴ社会は王族制で，８つの王家が存在します．そこでの皇帝の決め方は，軍での活躍や優れた統率力など実力のある王家一族が選ばれるといった，実力主義でありかつ，極めて民主的な方法で皇帝が決まるなど，理想的な仕組みで統率者が決まっていく様が描かれていますがこれは現実の社会にも置き換えられる問題です.

また，非アーヴ人であるジントと典型的なアーヴ人であるラフィーヌを主人公とし，2 人のやり取りや関わり合い方を描くことで，人種や価値観，生まれ育った環境など全く違う者同士がどのようにお互いを理解しあっていくのかということを描いていますが，これも現実社会に置き換えられる問題です．こういった類いの話は，現実社会を前提に描くと色々と問題がありそうですが，宇宙を舞台に描くことで，現実問題を気にせずに素直に描けるので，メッセージも伝わり易いですし，ストーリーとしても楽しめます.

I：

アーヴが独自に持つ感覚である空識覚（フロクラジュ）は面白い感覚ですね（図 2）.

T：

はい．ガジェットとして空識覚（フロクラジュ）は興味深いと思います．この感覚を使って，アーヴの移動手段である宇宙船のセンサーが取得する情報を空識覚器官（フローシュ）が前頭葉の航法野（リルビドー）に流し込むことで，感覚的に空間把握を行い，宇宙船の制御を行うことができます.

アーヴのように人間を改造するのではなく，VR の技術でこうした新しい感覚を受容し認識するテクノロジーができれば面白いですね.

そういう視点から考えると，この作品のアーヴの遺伝子操作による家風（ジェデール）の継続や宇宙での活動に適用するための感覚拡張などは，テクノロジー込みの進化形態として興味深いですね．感覚拡張などは，まさに VR 研究で取り組まれているテーマにも近いです.

＊星界の紋章は，第一話と最新話が web で公開されているので，興味のある方は是非読んでみて下さい.
http://comic-meteor.jp/seikaino/

図 2　星界の紋章より（P.86）
© 米村孝一郎 / ほるぷ出版

(1) 2013 年 4 月～ 6 月まで放映されたアニメ番組．陸地のほとんどが水没した未来の地球を舞台にした作品で，主人公は宇宙に進出した人類の子孫.
(2) 2013 年 4 月より放映中のアニメ番組．宇宙へ進出した地球人類に対して攻撃を開始した謎の勢力と戦うために遺伝子操作で作り出された宇宙に適応できる人種を生み出すプロジェクトにより生まれた特務機関 MJP に所属する主人公らが前線に送り込まれ戦いに挑む.
(3) 星界の紋章では台詞の中に出てくるアーヴ語がルビ入りで明記されている．一部紹介すると，宇宙港（ビドート），帝国貴族（ルエ・スイーフ），練習艦（クレーヤガ），貨客船（レビサーズ），帝都（アローシュ），通常空間戦（ダディオクス），時空分離（ゴール・リュクトス）など.